

Ⅳ 「生きて働く力」の育成をめざして

1 研究主題への基本的立場

中学部の教育は、「小学部で身につけた日常生活の基本的なことがらや社会参加の能力を更に高め、参加の範囲や経験内容を拡大し、徐々に地域社会のしくみや働きについての基本的な理解を深めさせ、進んでこれらに参加させながら、将来の職業人あるいは家庭の一員として必要な技能や態度を養い、高等部における職業教育の基盤づくりを図る」ことである。(註1)

昭和57年度に特に努力したり、従来の方針に改善を加えた点は、次の通りである。

(1) 中学部の教育方針 「友だちといっしょに楽しんで生活する子」の育成

(2) 中学部の指導の重点

- ① 日常生活(社会生活)に必要な基礎的な事柄を素直に表現する。
- ② 仕事や運動に力いっぱい取り組む。

(3) 中学部経営の基本方針

- ① 生活单元との取り組み強化
- ② 作業学習の充実
- ③ 学力の伸長と充実
- ④ 体力づくり
- ⑤ 自主的な余暇利用
- ⑥ 教科担任制から学級担任制へ

以上の点を確認したうえで、指導内容を検討し、各教科の取り組みについて視点を明確にした。

2 研究主題と5つのタイプ

研究と取り組むにあたって、「豊かな心」「まずしい心」「たくましい行動」「たくましくない行動」とはどんな実像かを浮き彫りにしようと、中学部6名の担任が生徒の実態をもとに、把握できる事柄を全部だしあいまとめてみた。その結果から、次のようなことが考察された。

(1) 実像として把握した4つの項目は、相互に関連しあい、裏腹の関係にある。

(2) どの実像も、道徳性あるいは正邪善悪が実態把握の基準になっていると思われる。

(3) 心の豊かさと行動のたくましさを次の図式で表わし、5つのタイプを挙げ指導法が模索できるのではないか。すなわち、Aタイプ-豊かな心をもって、すべての面でたくましく行動が見られるタイプ。Bタイプ-単純で心の働きの狭く、すべての行動がひ弱なタイプ。Cタイプ-豊かな心の持

